



インタビュー

北海道保健環境部長
厚谷純吉氏

道保健環境部は、医療、保健、衛生、環境保護、環境保全など人間の生命と環境を預かる重要なセクションで、その所管業務は幅広いが、特に高齢化社会に備えて国のゴールドプランに基づく老人保健施設の整備や紆余曲折を経て難産の末に像を結んだハイメックス構想の推進などの主要施策に力を入れている。また、北海道南西沖地震や兵庫県南部地震のような災害時には、救急医療対策のため第一線に立たなければならない。今回の阪神大震災でも札幌医大、道立病院から医師、看護婦、保健婦など16人を派遣したほか、精神科医の特別チームも要請を待って待機している。同部の厚谷純吉部長にそうした各種事業の展望と災害時の対策などについてインタビューした。

動き出したハイメックス構想

——北海道は南西沖地震の記憶も新しく、さらに東方沖、三陸はるか沖、そして今回の兵庫県南部地震など大災害の連続で、全国的に震災の不安が広がっていますが、そうした緊急時の対策は

災害時は医療体制の確保が急務

水道施設では石綿セメント管、老朽管の更新急ぐ

厚谷 救急医療対策としては、地震等の大規模な災害が発生した場合、北海道地域防災計画に基づき、道立の医療機関をはじめ日本赤十字社北海道支部や北海道医師会などの協力を得て、医師等から構成する救護班を現地に派遣し被災住民の医療を確保することとしております。

また、現地において対応できないような重症の患者が発生した場合は、道の防災ヘリコプター「はまなす」のほか、自衛隊、海上保安庁の協力により速やかに高度な医療機関に搬送する体制を整えています。

——被災地の住民の生活で切実な問題は水の確保のようですが、水道施設の震災対策は

厚谷 水道施設の被害については、断水を速やかに解消することが何より重要ですので給水施設の早期復旧に全力を挙げることにしております。また、一方では日ごろから被害の発生しやすい石綿セメント管や老朽管を順次更新するとともに、継手部の離脱、破損を防止するための対策を進めてきています。

また、被災箇所を特定するための漏水調査には、大量の水が必要となりますので、配水池の容量確保などに努めています。

——市町村保健センターの整備状況と今後の整備方針は

厚谷 市町村保健センターは、昭和53年度から市町村における保健対策の拠点として整備を進めており、現在、43ヵ所となっています。

昨年7月、従来の保健所法が改正されて、地域保健法となり、市町村保健センターを法的に位置付けて整備を進めることとされました。市町村では、既に実施している老人保健事業に加え、平成9年度から母子保健事業など住民に身近で頻度の高い保健サービスが市町村に移譲されることから、これら保健事業の実施拠点として市町村保健センターの整備を一層推進する必要があると考えています。

国は補助制度を拡充し、整備の促進を図るとしていることから、道としても、今後未設置の市町村についてセンターの整備に努めるとともに類似施設の活用も含めて検討していただきたいと考えています。

——老人保健施設の整備状況と今後の整備方針は

厚谷 老人保健施設は、昭和63年に制度が創設されてから6年を経過し、現在、41施設・3,570床が開設され、建築中のものを含めると52

施設・4,633床の整備が見込まれています。

その整備については、「高齢者保健福祉推進10年戦略（ゴールドプラン）」に基づき11年度までに12,350床の整備を目標に、地域的なバランスを考慮した均衡ある整備を進めているところです。単に量的整備を図るだけではなく、サービスの質の向上が課題になっています。そのため、5年度から利用者の希望に沿った質の高いサービスの確保・向上を支援するため「老人保健施設サービス評価事業」を実施しています。

——医療施設の整備方針については

厚谷 北海道地域保健医療計画に基づき、地域における医療供給体制の整備を進めるため、第二次保健医療圏の中核的病院である「地域センター病院（計画25病院、指定24病院）」、第三次保健医療圏の高度専門医療機関である「地方センター病院（計画6病院、指定4病院）」と高度救急医療を担う「救急センター（計画7病院、指定5病院）」の指定・整備を図り、道単独の補助制度として「センター病院等拡充強化事業費補助金」を設け、また今年度から地域センター病院を利用することが非常

に困難な離島などの地域に離島等特定地域病院（4病院）を指定・整備するなど、地域医療の体系的整備に努めているところでもあります。

今後とも、地方・地域センター病院を中心として、医療機関相互の機能分担と連携を促進し、地域に必要な医療機能の整備を図っていきたいと考えています。

——ハイメックス構想はいよいよ研究施設の設立準備に入ることになりましたが、その現状と今後の展望は

厚谷 道は、ハイメックス建設推進協議会からの要望や同協議会で作成された「ハイメックス基本構想並びに事業化方針」を踏まえ、昨年9月に「医療・産業・研究都市づくり」事業の基本構想を策定しました。

この事業は、「医療・福祉等を中心に、国際的視野に立った先進的な研究開発・サービス提供などの拠点形成」、「職・住・遊の近接したゆとりある快適な住環境の創出」、「思いやりのある豊かな地域づくりの推進」を基本理念として、広島町南里の約240haの地区で行うものです。

今後の事業推進については、基盤整備を北海道住宅供給公社が進め、道は研究施設などの整備と誘致、広

島町は学校などの公共施設の整備、協議会は企業誘致活動などを主な役割としているので、国に対しても必要な支援などを要請しながら、関係機関が十分な連携を図って着実に取り組んでいきたいと考えています。

—— 自然公園の整備、維持管理などについては

厚谷 近年、自然への関心の高まりに加え、国民の生活水準の向上や余暇の増大、高齢化に伴い、すぐれた自然の中でのくつろぎと自然との多様なふれあいが求められています。

これらのニーズに対応するためには、自然公園の施設整備予算をこれまで以上に確保していく必要があるため、国では今年度からこの予算を公共事業に位置付けており、道でも7年度は大幅な増額を要求しています。北海道は東京都の4倍の面積に匹敵する自然公園を有するのだから、更に大幅な伸びを目指すことが

必要と考えています。

また、自然公園の施設整備と併せて重要な問題である公園の維持管理や清掃は、市町村や関係機関に補助するほか、ボランティアの方々の協力を得て、ゴミ拾いなどの清掃活動を実施していますが、これらの対応では十分でないとの指摘もあることから、適切な方策を検討していく考えです。

—— 道立江差病院の設計、整備方針については

厚谷 道立江差病院は、南檜山保健医療圏の地域センター病院として地域医療の一翼を担っていますが、建物の老朽化が著しく医療機能面では必ずしも十分とは言えない状況です。また、圏域外で受診する方が多いこともあり、施設・設備を含めて早急に整備する必要があります。このような医療実態を十分考慮の上、南檜山保健医療圏の中核病院として

二次医療機能の充実整備を図るため、立地条件等に配慮しながら移転改築をすることとしました。

改築整備に当たっては、「道立病院の再編整備と経営健全化の方策」に基づき、新たに精神・神経科、皮膚科及び泌尿器科を備えた総合病院とすることとしており、これまでの一般病棟に精神・神経科病床50を加え、200床にする予定です。移転地は江差町の伏木戸地区で、敷地面積は約6万㎡と考えています。

現在、基本設計を行っており、今後は地元関係者のご理解とご協力を得ながら実施設計を行い、建築工事は8年度から2ヵ年で進め、10年度当初に供用開始の予定です。整備に当たっては、患者のニーズや療養アメニティに十分配慮するとともに、高齢者や障害者に優しい、公共建築物として地域から親しみが持たれる病院にしたいと考えています。



厚谷純吉 あつや・じゅんきち

昭和11年生まれ、函館市出身、札幌医大卒。

42年広尾保健所長、46年名寄保健所長、54年釧路保健所長、60年衛生部保健予防課長、62年民生部心身障害者総合相談所開設準備室長、62年心身障害者総合相談所長、平成2年保健環境部技監、4年現職。